教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 教育総合研究所　　資格： 教授　　氏名： 中尾　賀要子

研究分野	研究内容のキーワード
老年ソーシャルワーク、マイノリティ支援	エイジング、ソーシャルワーク、支援者、在米被爆者、日系、福島、LGBT、ライフレビュー、ナラティヴ、偏見と差別
学位	最終学歴
PhD (Social Welfare), MSG (Gerontology), MSW (Social Welfare) https://orcid.org/0000-0002-6527-7970	University of California, Los Angeles, School of Public Affairs, Department of Social Welfare

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.教職課程における授業実践の指導	2020年4月～2021年3月	教職課程の授業実践として授業動画の作成を指導し、mwu.jpのアプリを活用したフィードバック・システムを構築した。教職を目指す学生にとって、オンライン授業という新たな授業方法の習得につなげた。
2.オンデマンド型学生間交流の実現	2020年前期～現在	オンデマンド型共通教育科目において、課題の匿名性とプライバシーの保護を徹底し、共有回にてフィードバックを行っている。共有回に対する共感や反論などの共有も行うことで、学生間の意見交換や交流を実現している。
3.mwu.jpを活用した遠隔教育	2020年前期～現在	担当科目ごとにHPを作成し、講義動画を含む様々な情報を編成したウェブページを、各週の授業として配信している。
4.大心3年担任業務	2018年度、2016年度、2014年度、2012年度	社会福祉コース3年次は、キャリア形成の足掛かりとなることを集団指導で強調し、卒業後の人生を主体的に考える意識啓発を行った。個別相談では各学生の性格や状況を把握しつつ、本人の意思とペースを尊重した進路指導にあたった。
5.大心4年担任業務	2017年度、2015年度、2013年度	社会福祉コース4年次は、就職活動、卒業論文研究、国家資格対策にほぼ同時期に取り組むため、協働性と相互扶助の意識が高いクラスづくりを心掛けた。また、各自が納得した進路選択ができるよう、個別や小グループの相談対応も行った。
6.社会福祉コース国家試験対策	2014年～2018年	社会福祉士・精神保健福祉士の国家資格取得を目指す学生サポートの一環として、学内模試のオンライン受験と採点作業のシステムを構築した。また、他の福祉教員と役割分担しながら、合格率の維持向上に向けた継続的な支援を行った。
7.質的研究方法に関する大学院科目	2014年	臨床教育学研究科大学院生の学術的関心と研究活動に対応するために、質的研究方法の科目を提案した。2015年度より「社会福祉調査法特論（2020年度より「社会調査法」に変更）」を担当している。
8.プレゼンテーションスキル向上を目指す授業実践	2010年4月～2020年3月	人前で話すことへの苦手意識を克服し、プレゼンテーションに対する自信を獲得するための取り組みとして、1分間スピーチやグループ発表、学術レポートに関する個人発表など、様々な発表形態を授業に取り入れた。
9.ICT教育の導入	2010年4月～2020年3月	課題提出や小テストにオンライン機能を使うなど、随時ICTを教育活動に取り入れてきた。学生がEmailやチャットなど複数のコミュニケーション媒体を同時に使用して参加する、双方向性対話型の授業実践に力を入れた。
10.大学院の論文指導	2010年～現在	臨床教育学研究科において、現代の社会問題であり、かつアプローチが困難と考えられるマイノリティの人々を対象とした研究題目（LGBT当事者とその家族、DV被害者、息子介護者、医療的ケア児とその家族など）の論文指導を行っている。
11.社会人大学院生の進学・キャリア相談	2010年～現在	社会人大学院生や大学院修了生から、大学院（博士課程、セカンドマスター）進学、大学・短大教員等への

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
12.セクシュアル・マイノリティ学生とその家族の支援	2010年～現在	キャリアアップ、リタイヤメントプランとしての再就職、福祉系事業の開業等に関する相談に応じている。アイデンティティ、友人・家族関係、心身の不調、進学・就職など、セクシュアル・マイノリティ学生からの個別相談に応じ、必要に応じて社会資源につなげている。またその親からの相談にも対応している。
13.協働性と公平性、及び主体性を育む授業実践	2010年～2018年	社会福祉コース2年次や3年次の演習・実習の授業において、協働の力を養うために少人数のグループワークを活用した。また、各自が公平性を意識しながら自分たちで分担調整するよう促すことで、主体性の教育も心掛けた。
2 作成した教科書、教材		
1.「保育・幼稚園教育・子ども家庭福祉辞典」ミネルヴァ書房	2021年6月	中坪史典・松井剛太・山下文一・伊藤嘉余子・立花直樹編　担当：第10章「子ども家庭福祉の現代的テーマ（編集代表：中村明美）」掲載語彙のうち6語の解説を担当した。
2.「新・はじめて学ぶ社会福祉⑥　障害児の保育・福祉と特別支援教育」ミネルヴァ書房	2019年9月	杉本敏夫監修　立花直樹・中村明美・松井剛太・井上和久編　担当：第20章「外国籍の児童やLGBTの児童への支援と理解（pp.267-278）」外国につながりのある児童やLGBTの児童について、わが国の現状と支援課題を解説した。
3.学習教材「日本版自己発見タペストリー」の開発	2018年～2019年	自己理解の力を醸成するツールとして、南カリフォルニア大学Phyllis Melzter教授の開発した「The Self-Discovery Tapestry」を基盤に日本文化・社会的側面を反映した「日本版自己発見タペストリー」を開発した。
4.mwu.jpを活用した学習教材の提供	2017年～現在	授業で用いる学習教材として、学術論文、動画、URL、小テスト等を、mwu.jpのアプリを活用して提供している。
5.Webデータベースや電子ジャーナル等を活用した教材作り	2010年～現在	本学の図書館情報検索で幅広い分野から学術論文を厳選し、各担当科目の課題リーディングを編成している。また新聞や雑誌、動画等も採用し、既存のテキストには含まれていない時事問題に触れるよう心掛けている。
6.μCamを活用した学習教材の提供	2010年～2017年	学習用教材として、授業で用いる多種多様な教材（パワーポイントを使ったスライド、映像、記事等）をμCamを通して提供した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）講師	2024年8月1日	「兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）」主催「令和6年度　中堅教諭等資質向上研修：教育課題研修（生徒指導）」にて講師（オンデマンド型講義動画を作成・提供）
2.兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）講師	2023年8月1日	「兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）」主催「令和5年度　中堅教諭等資質向上研修：教育課題研修（生徒指導）」にて講師（オンデマンド型講義動画を作成・提供）
3.兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）講師	2022年8月1日	「兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）」主催「令和4年度　中堅教諭等資質向上研修：教育課題研修（生徒指導）」にて講師（オンデマンド型講義動画を作成・提供）
4.兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）講師	2021年8月3日	「兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）」主催「令和3年度　中堅教諭等資質向上研修：教育課題研修（生徒指導）」にて講師
5.兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）講師	2020年8月4日	「兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）」主催「令和2年度　中堅教諭等資質向上研修：教育課題研修（生徒指導）」にて講師（オンデマンド型講義動画を作成・提供）
6.兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）講師	2019年7月24日	「兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）」主催「令和元年度　中堅教諭等資質向上研修：教育課題研修（生徒指導）」にて講師（開催場所：武庫川女子大

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
		学　教育研究所）
7.兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）講師	2018年7月25日	「兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）」主催「平成30年度　中堅教諭等資質向上研修：生徒指導研修」にて講師（開催場所：武庫川女子大学　教育研究所）
8.兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）講師	2017年7月25日	「兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）」主催「高等学校教員10年経験者教科研修」にて講師（開催場所：武庫川女子大学　教育研究所）
9.兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）講師	2016年7月26日	「兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）」主催「高等学校教員10年経験者教科研修」にて講師（開催場所：武庫川女子大学　教育研究所）
10.兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）講師	2015年7月23日	「兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）」主催「高等学校教員10年経験者教科研修」にて講師（開催場所：武庫川女子大学　教育研究所）
11.兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）講師	2014年7月23日	「兵庫県立教育研修所（兵庫県教育委員会）」主催「高等学校教員10年経験者教科研修」にて講師（開催場所：武庫川女子大学　教育研究所）
12.全国社会福祉協議会　中央福祉学院　講師	2011年1月17日	「社会福祉法人全国社会福祉協議会」主催「平成22年度社会福祉主事　通信課程　社会福祉援助技術演習」にて担当講師（開催場所：全国社会福祉協議会 中央福祉学院）
4 その他		
1.令和4年度前期　授業改善奨励賞	2022年10月18日	令和4年度前期共通教育科目「セクシュアリティ入門Ⅰ」「セクシュアリティ入門Ⅱ」における挑戦的な授業実践に対する表彰。「リアクションペーパーの共有」の授業回にて、毎週提出のリアクションペーパーの中から選抜した内容を読み上げ、講師からのコメントだけでなく、他の学生の共感的見解や異論などの率直な意見もフィードバックしている。顔が見えないオンデマンド型の匿名性を生かした取組みであり、性という禁忌性の高いテーマにおける学生間の主体的かつ対話的な学びを実現している。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.専門社会調査士（8条規定）	2019年10月	一般社団法人社会調査協会認定資格（第002606号）
2.精神保健福祉士実習演習担当教員資格	2013年3月	社団法人日本精神保健福祉士養成校協会
3.社会福祉士実習演習担当教員資格	2010年12月	社団法人日本社会福祉士養成校協会
4.Guided Autobiography Instructor	2010年6月	The Birren Autobiographical Studies Program (California, USA)
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.京都女子大学・武庫川女子大学 合同SD研修	2024年12月6日	「女子大学におけるキャンパスの多様性について考える」と題した合同SD研修の講師として、「セクシュアリティ」をテーマに担当した。
2.武庫川女子大学　研究推進センター　研究推進委員会　委員	2024年4月1日～現在	研究推進委員会委員として、研究活動の活性化に向けた研究環境の改善と方策の立案、実行に取り組んでいる。
3.令和5年度 文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）検討グループメンバー	2023年10月16日～2025年3月31日	女性リーダー育成グループのメンバーとして、事業計画と予算計画を立案し、実行・展開に取り組んでいる。
4.武庫川女子大学　研究推進委員会　委員	2023年7月1日～2024年3月31日	研究推進委員会委員として、研究活動の活性化に向けた制度設計、研究環境の改善等に取り組んだ。
5.武庫川女子大学　女性活躍総合研究所　研究員	2023年4月1日～現在	武庫川女子大学　女性活躍総合研究所　ジェンダー平等推進部門のリーダーとして、学院のジェンダー公平と平等の実現に向けた提案や方策の実践に取り組んでいる。
6.兵庫医科大学倫理審査委員等研修会　講師	2023年3月7日	兵庫医科大学倫理委員会委員、臨床研究審査委員会委

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
		員、事務担当者向けの研修会講師として、「質的研究と倫理審査」と題した講演を行った。
7.兵庫医科大学　倫理審査委員会　委員	2022年4月1日～現在	倫理審査委員会委員（一般の立場の者）として、兵庫医科大学で行われる医学研究及び医療行為が、ヘルシンキ宣言等の趣旨に沿って倫理的配慮のもとに行われていることを審査している。
8.武庫川女子大学　研究推進委員会　委員	2021年～2023年3月	研究推進委員会の到達目標策定チーム統括者として、本学の研究推進にかかるビジョンとプランを検討し取りまとめた。
9.兵庫医科大学　臨床研究審査委員会　委員	2018年4月～2023年3月	臨床研究審査委員会委員（一般の立場の者）として、医学の臨床研究に関わる倫理審査を担当した。
10.武庫川学院鳴松会　明石支部総会　講師	2017年4月16日	「老年学の視点から捉えた私たちの生き方・老い方の理論」と題して、鳴松会明石支部総会（開催場所：グリーンヒルホテル明石）において講演した。
11.武庫川女子大学　男女共同参画推進課　専門員	2016年4月～現在	男女共同参画推進課（旧男女共同参画推進室）専門員として、本学教職員や学生からの相談に対応し、セミナー等の企画運営、本学のワークライフバランス・ハンドブックの製作などに携わっている。
12.武庫川女子大学　教学局　学校教育センター委員（高校福祉）	2016年4月～2019年3月	心理・社会福祉学科の学校教育センター委員として、教職課程（高校福祉）に関する庶務ならびに履修生への指導を担当した。
13.武庫川女子大学　女性研究者研究活動支援事業　育児・介護支援部門リーダー	2015年4月～2016年3月	育児・介護支援部門リーダーとして本学の育児・介護セミナーの企画運営、ワークライフバランスガイドブック（改訂版）の作成等を担当した。
14.在ブラジル・在アメリカ被爆者裁判を支援する会報告者	2012年7月31日	「在ブラジル・在アメリカ被爆者裁判を支援する会」主催「在外被爆者を支援する集い（広島市中区福祉センター）」にて「在米被爆者の生活と願い」と題した発表報告を行った。
15.福島県社会福祉士会県北方部研修会　講師	2012年2月25日	「福島県社会福祉士会県北方部研修会（福島県総合社会福祉センター）」主催「高齢化する在米被爆者とソーシャルワーク」 と題して講演した。
16.福島県社会福祉士会県北方部研修会　講師	2011年9月27日&2011年11月26日	「福島県社会福祉士会県北方部」主催「援助職支援のためのワークショップ講座（福島県総合社会福祉センター）」にて研修会講師を担当した。
17.武庫川女子大学　女性研究者研究活動支援事業　育児・介護支援部門サブリーダー	2011年2月～2015年3月	育児・介護支援部門サブリーダーとして本学の育児・介護ニーズ調査の実施、セミナーの企画運営、ワークライフバランスガイドブック（初版）の作成等を担当した。
18.大阪府保険医協会　講師	2011年1月20日	「アジアの文化的価値観の役割：認知症患者を自宅介護する家族の場合」と題して講演した。
19.関西学院大学人間福祉学部　人間社会福祉学研究査読者	2011年～2013年	関西学院大学人間福祉学部発行「人間社会福祉学研究」への投稿論文査読を担当した。
4 その他		
1.M&Ms（非公認サークル）活動支援	2018年	武庫川女子大学非公認セクシュアル・マイノリティサークル「M&Ms」の立ち上げに関する相談支援
2.にじいろのはな（非公認サークル）活動支援	2016年～2018年	武庫川女子大学非公認セクシュアル・マイノリティサークル「にじいろのはな」の立ち上げと活動に関する相談支援

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.「保育・幼稚園教育・子ども家庭福祉辞典」	共	2021年6月	中坪史典・松井剛太・山下文一・伊藤嘉余子・立花直樹編「第4部　子ども家庭福祉　第48章　子ども家庭福祉の現代的テー	中村明美（第48章編集代表）・明柴聰史・藤野ゆき・磯部美良・中尾賀要子・西尾亜希子・ 尾関唯未・﨑山ゆかり．本書は大学や短期大学といった保育士や幼稚園教諭の養成施設で学ぶ初学者に向けた、わかりやすい用語辞典として編集されている。担当した第48章「子ども家庭福祉の現代的テーマ」は、家庭、教育、福祉の連携が推進される現代において、保育士や幼稚園教諭が身に着けておくべき必修の福祉に関する知識を網羅している。第48章に掲載された語

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
			マ」ミネルヴァ書房	句のうち、6語の解説を担当した。
2.「新・はじめて学ぶ社会福祉⑥　障害児の保育・福祉と特別支援教育」	共	2019年9月	杉本敏夫監修　立花直樹・中村明美・松井剛太・井上和久編　「第20章　外国籍の児童やLGBTの児童への支援と理解（pp.267-278）」ミネルヴァ書房	中尾賀要子　「第20章　外国籍の児童やLGBTの児童への支援と理解（pp.267-278）」を担当。本書は、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・児童指導員等を目指す学生や各専門職において、障害児に対する保育・福祉と教育を一体的に学べるテキストとして編成されている。担当した第20章では、近年注目を集める日本における外国につながりのある児童およびLGBTの児童の現状と支援の課題について概観し、支援者としての関わりにおいて留意したい多様性へのまなざしを提示した。
3.「戦争が生み出す社会Ⅰ：戦後社会の変動と記憶」	共	2013年2月	荻野昌弘編『「在米被爆者の語り」から：戦争が生みだす境界のはざまで（pp.157-189）』新曜社	池埜聡・中尾賀要子　本書は、空間・移動・他者の切り口から戦争を読み解こうとする包括的研究の叢書一冊目であり、特に太平洋戦争前後の人口移動、旧軍用地の利用、戦争アニメ、取り残された戦争被害の問題群に焦点を当てることで、人間社会が避けられない戦争を読み解こうとした。担当した章では、戦争が生み出す境界というテーマに基づき、在米被爆者が経験する不可視化された「境界」の存在を「家族」と「原爆責任論」の視点から考察した。文献レビュー、データ収集、構成を担当した。
4.A Quest for Alternative Sociology	共	2008年4月	Aging Japanese American Atomic-bomb Survivors in Southern California: A Case Study（pp.105-121）Trans Pacific Press, Australia	Nakao, K. C., & Ikeno, S.　本書は関西学院大学の社会学と社会福祉学を専門とする研究者を中心として発足した、人間の幸福実現に向けた社会科学的探究の中間報告書として位置付けられる。担当した章は、在米被爆者2名との直接インタビューの記録、老年学理論、移民史料、医学論文、戦争史等の文献を用いて、多面的な角度から在米被爆者問題を考証したケース・スタディ論文である。歴史と二つの祖国の間に立たされながら、今一層の救済を要する高齢化した在米被爆者の存在を明らかにしようと試み、高齢化による在米被爆者の身体的、心理的、社会的問題の変容に言及した。文献レビュー、データ収集、分析、構成、全文執筆を担当した。英語論文。
2 学位論文				
1.Knowledge, Preferences, and Arrangement of End-of-life Care and Decision-making among Japanese American Older Adults	単	2009年6月	University of California, Los Angeles	Nakao, K. C.　在米日系人高齢者を対象にサーベイ調査を行い、遺言、代理人、延命治療、ホスピス、臓器提供、葬儀について、理解、好み、準備状況と、健康、価値観、死への意識といった各種要因との関係を仮説検証した。更に自由記述による質的データから、日系人特有とみられる死の捉え方を抽出した。総合考察として、米国医療現場の主流である個人主義とは対極の家族での意思決定の重要性、死に関する福祉教育カリキュラム強化の必要性を示唆した。英語博士論文。
3 学術論文				
1.LGBTQ+に関する筑波大学の基本理念と対応ガイドラインの策定経緯と今後	共	2025年3月31日（予定）	武庫川女子大学教育総合研究所　研究レポート	河野禎之・土井裕人・保井啓志・安東由則・中尾賀要子（編集）我が国の高等教育におけるLGBTQ+対応の原典といっても過言ではない、筑波大学LGBTQ+に関する基本理念と対応ガイドラインの策定経緯と今後についてのインタビュー報告（JSPS科研費 JP20H01639/23K20173）。
2.2022年度から2024年度の3カ年にわたるSOAR導入講義後のWeb調査結果－第Ⅱ部　新入生の仕事とキャリアデザイン、ライフプランニング、ジェン ダー・セクシュアリティに関する回答傾向（査読あり）	共	2025年3月31日（予定）	武庫川女子大学女性活躍総合研究所紀要	中尾賀要子・安東由則・高橋千枝子・中村明美・山本典子・西尾亜希子・私市佐代美・河合優年・高橋享子　2022年度から2024年度の武庫川女子大学入学生を対象に実施されたオンライン意識調査結果をまとめた実践報告。3カ年にわたるデータの集積により、学部別にみたジェンダーの影響と結果の傾向を提示している。全報告頁数が多いため、新入生の仕事とキャリアデザイン、ライフプランニング、ジェン ダー・セクシュアリティに関する回答傾向を第二部としてまとめている。
3.2022年度から2024年度の3カ年にわたるSOAR導入講義後の	共	2025年3月31日（予定）	武庫川女子大学女性活躍総合研究所紀要	中尾賀要子・安東由則・高橋千枝子・中村明美・山本典子・西尾亜希子・私市佐代美・河合優年・高橋享子　2022年度から2024年度の武庫川女子大学入学生を対象に実施されたオンライン意識調査結果

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Web調査結果－第Ⅰ部　新入生の概要と入学動機（査読あり）				をまとめた実践報告。3カ年にわたるデータの集積により、学部別の特徴などを浮き彫りにしている。全報告頁数が多いため、新入生の概要と入学動機を第一部としてまとめている。
4.Attitudes toward Organ Donation among Japanese American Older Adults: Implications from the Open-Ended Responses（査読あり）	単	2024年12月～2025年3月（予定）	査読完了／Review Completed（2024年9月27日現在）、結果待ち	Nakao-Hayashizaka, K. C. 日系アメリカ人高齢者の臓器提供に対する意識や文化的傾向をコミュニティサーベイの回答結果から提示。高齢者が高齢者自身に対して抱いているエイジズムの影響に言及している。英文誌。
5.ジェンダー，キャリアデザイン，ライフプランの意識調査2022 －MUKOJO未来教育プログラムSOARの始動によせて（査読あり）	共	2024年2月	武庫川女子大学女性活躍総合研究所紀要，2，17-31.	中尾賀要子・安東由則・高橋千枝子・西尾亜希子・山本典子・私市佐代美・河合優年・高橋享子　2022年度武庫川女子大学入学生を対象に実施されたオンライン意識調査から、ジェンダー、キャリアデザイン、ライフプランに関する結果をまとめた報告。新入生は、女性に関するジェンダー・ステレオタイプを克服する兆しだけでなく、大学生活を通したキャリア教育に前向きな姿勢を示していた。本学における教育効果の検証には今後も調査を継続することを提案。
6.オンデマンド型共通教育授業「セクシュアリティ入門」の評価－YouTubeアナリティクスの指標と授業アンケートをもとに	単	2023年	武庫川女子大学大学院　臨床教育学研究科　臨床教育学研究，29，13-28.	中尾賀要子　2020年より共通教育部において開講した「セクシュアリティ入門」の形成評価と今後の課題について、YouTubeの指標を用いて検討。
7.LGBT＋とAlleyのための大学教育－女子大におけるダイバーシティの実現	共	2022年	武庫川女子大学教育研究所　研究レポート，53，27-40.	三橋順子・中尾賀要子　三橋順子氏による2021年度　武庫川女子大学教育研究所　学術講演会の議事録を、内容を整理して編集した報告書。
8.End-of-life preparedness among Japanese Americans: A community survey（査読あり）	単	2022年	Journal of Social Work in End-of-Life & Palliative Care, 18(3), 216-234. doi: https://doi.org/10.1080/15524256.2022.2093312	中尾賀要子　日系アメリカ人高齢者における終末期への準備について調べた探索的量的調査。日系アメリカ人高齢者は、遺言、医療に関する事前指示書、ヘルスケアプロキシ（医療に関する意思決定の代理人）指名などにおいて、米国人一般や他のアジア系アメリカ人高齢者に比べかなり高い所持率を示した。遺言書の作成に付随して医療に関する準備を勧められることが、こうした高所持率につながったと考えられる。なお、遺言書の作成は、遺産相続をめぐる家族間の揉め事回避のためとの声もあり、和の精神を重んじる伝統的な価値観が背景にあると考えられた。英文誌。
9.宮城学院女子大学におけるトランスジェンダー学生の受け入れ経緯と準備－キーパーソンへの聞き取り調査から	共	2021年	武庫川女子大学教育研究所　研究レポート，52，1-20.	末光眞希・戸野塚厚子・栗原健・大泉有香・西尾亜希子・中尾賀要子・安東由則編　宮城学院女子大学におけるトランス女性の受け入れと送り出しに関する合意形成において、中心的役割を果たした教職員を対象に実施した聞き取り調査の記録。
10.アメリカの中の在米被爆者－日系社会のナラティブに基づいた考察	単	2020年3月	日本臨床教育学会　臨床教育学研究，第8巻，130－141.	中尾賀要子　本稿は臨床教育学研究の中でも、「海外動向」の紹介として依頼されたものである。在米被爆者の紹介に留まらず、明治に遡る日本人の移民史と、第2次世界大戦中に強制収容所を経験したアメリカ日系社会の民族史を背景に、アメリカにおける在米被爆者の社会的輪郭を描き出す歴史社会福祉の論考として寄稿した。
11.回想法研究へのリクルートとリテンションに関する一考察－鳴松会協力のもとに	単	2018年3月	武庫川女子大学教育研究所　研究レポート，48，147-153.	中尾賀要子　一般的に高齢者を対象とした調査では、高齢者の参加同意も参加継続も様々な事情で難しいとされる。そこで本稿では、武庫川学院鳴松会の協力を得て実施した回想法研究「日本版ガイデッド・オートバイオグラフィー（Guided Autobiography）の妥当性検証」の実施過程をふりかえり、研究参加者のリクルートとリテンションの経緯を概観し、日本における高齢者を対象とした質的な研究と実践における留意点を考察した（文部科学省科研費JP23530793）。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
12.福島の三年目と復興－あるソーシャルワーカーへの追跡インタビューを通して（査読あり）	単	2016年3月	武庫川女子大学大学院　臨床教育学研究科　臨床教育学研究，22，35-51.	中尾賀要子　2011年の東日本大震災による原発事故と風評被害により、福島を取り巻く環境は大きく変わった。本稿は、震災後1年目にインタビューした福島に生きる一人のソーシャルワーカーに対して、追跡インタビューを行ったデータをもとにしたケース・スタディ論文である。震災・原発事故発生からの3年間を後方視的に紐解き、現地に生きる対人援助職の今後の課題について考察した（武庫川女子大学　21089 特［研］原発後研究）。
13.東日本大震災からの半年－福島のあるソーシャルワーカーの語りから（査読あり）	単	2014年3月	武庫川女子大学大学院　臨床教育学研究科　臨床教育学研究，20，19-31.	中尾賀要子　東日本大震災発生直後から、東北各地における災害支援活動が続いている。しかし、原発事故の発生した福島は他の東北地方とは異なる様相を見せており、福島における支援活動に焦点を当てた学術報告も少ない。本稿は、東日本大震災発生前から福島で住民支援に携わるあるソーシャルワーカーに焦点を当て、原発事故発生後の福島を生き抜く一人の対人援助職の震災前後を概観したケース・スタディ論文である（武庫川女子大学　21089 特［研］原発後研究）。
14.在米被爆者協会分裂の要因分析と今後の援護課題（査読あり）	共	2013年11月	人間福祉学研究，6(1)，47-68.	池埜聡・中尾賀要子　在米被爆者の救済活動は1960年代に遡る。本稿では1965年に発足し、非営利慈善団体として日米政府へのロビー活動を展開するまでに発展した「米国原爆被爆者協会(Committee of Atomic Bomb Survivors: CABS)」の、突然の内部分裂と組織の衰退に影響を及ぼした要因を、固有ケーススタディ法を用いて探索した。北米被爆者健診で訪米していた医師会とCABSの間に生じていた権力構造とCABS内部で生じていた対立構造の関係に着目し、権力構造の中心にいた支援者の健診活動の私設化傾向や人道的視点の欠如を主要因として考察した。文献レビュー、分析、構成を担当。
15.Examination of the psychometric properties of the Knowledge of Aging for Social Work Quiz（査読あり）	共	2013年10月	Educational Gerontology，39(10)，761-771.	Nakao, K. C., Damron-Rodriguez, J., Lawrance, F. P., & Volland, P. J.　アメリカの福祉教育用に作成された高齢期に関する知識評価尺度の妥当性と信頼性について、米国35のソーシャルワーク大学院修士課程在籍の481名の社会福祉大学院生のデータを用いて検証した量的調査。高齢者に特化した援助技術演習やコースワークが知識向上に影響することを示唆した。尺度の信頼性は高いが妥当性に改善の余地が見られる為、改訂を提言した。文献レビュー、データ収集、分析、構成、執筆を担当。英文誌。
16.病児・病後児保育へのニーズの多様化に応じた政策のあり方（査読あり）	共	2013年3月	武庫川女子大学大学院　臨床教育学研究科　臨床教育学研究，19，1-11.	西田千夏・中尾賀要子　保育所に子供を預ける保護者が求める社会支援の一つであるわが国の病児・病後児保育について、現行制度を実施施設、保護者、子供といったステークホルダーの観点から検証した投稿論文。担当は編集校正と結論における一部加筆のみ。
17.高齢化する在米被爆者の実態調査－被爆による身体的、心理的、社会的影響の包括的理解と政策及び研究課題（査読あり）	共	2009年11月	人間福祉学研究，2(1)，73-86.	中尾賀要子・池埜聡　在米被爆者と呼ばれるアメリカに暮らす高齢被爆者の存在は、社会科学系の学術論文では管見の限り見当らない。本稿は、老年学の概念的枠組みを用いて、在米被爆者の身体的、心理的、社会的実態を量的に調査し報告した日本語論文である。高齢化が急速に進んでいる在外被爆者の現状を総体的に描くことで、援護政策の見直しと実態に即した支援の緊要性を指摘し、ソーシャルワーク研究の今後の課題を提示した。文献レビュー、データ収集、分析、構成、執筆を担当。
18.在アメリカ被爆者の援護と研究課題－心理社会的視座からのアプローチ（査読あり）	共	2007年3月	関西学院大学社会学部紀要，102，85-100.	池埜聡・中尾賀要子　広島で被爆した日系アメリカ人が母国アメリカで生きてきた戦後の記録は、極めて少ない。本稿は、高齢化する在米被爆者が直面する心理的、社会的問題について、ライフレビューインタビューを用いて探索した質的調査論文である。米国生まれの日系人が被爆を経て戦後米国に戻り、現在に至るまでを振り返る中で語られた、重層的アイデンティティや日米関係の狭間に生きる不可視化な立場を取り上げ、今後の支援実践と研究課題について提言した。データ収集、論文の構成を担当。
19.Cross cultural issues in caregiving for persons with dementia: Do familism values	共	2002年Summer	Ageing International，27(3)，80-93.	Knight, B. G., Robinson, G. S., Longmire, C. V. F., Chun, M., Nakao, K., Kim, J. H.　多様性の尊重が叫ばれるアメリカ社会において、介護問題の多様性も注目されるようになっている。本稿は、認知症患者を自宅介護するマイノリティー介護者のメンタルヘルスを取り上げ、ファミリズム(家族中心主義）と介護負担感や介護鬱との関係を、白人、アフリカ系、メキシコ系、日系、韓国系アメ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
reduce burden and distress?				リカ人のデータを用いて行った量的調査論文である。マイノリティー介護者間に、ファミリズムによる介護鬱の抑制効果がみられた。日系人介護者に関するデータ収集、文献レビュー、分析、構成、執筆を担当。英文誌。
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
1.福島のソーシャルワーカーが語る震災後 ～キセキのすばなし、すばなしのキセキ～	単	2023年9月6日	第220回ふくしま復興支援フォーラム、Zoomオンライン開催	中尾賀要子　2011年より定期的に実施してきた福島県北方部社会福祉士らへの追跡インタビュー調査について、その概要と分析結果、ならびに総合考察を報告した（JSPS科研費 JP18K02091）。
２．学会発表				
1.関西の女子大学におけるHIV/AIDS教育の現状：2024年度シラバスをもとに	共	2024年11月29日	第38回日本エイズ学会学術集会・総会・一般演題・京王プラザホテル（新宿）	中尾賀要子・三宅弘晃・小吹文紀　HIV/AIDSの感染は20代が多く、大阪は東京に次いで感染者数が多い。また日本国籍女性のHIV/AIDS新規報告数が増加している。そこで関西圏の女子大学18校におけるHIV/AIDSや性感染症等を取り上げた開講科目を調査することで、女子大学における正規科目を通した知識普及の実際を概観し、女子大学における感染予防教育について検討する。
2.HIV陽性当事者の社会保障制度と民間保険加入に対する認識とその課題	共	2024年11月29日	第38回日本エイズ学会学術集会・総会・一般演題・京王プラザホテル（新宿）	小吹文紀・小吹文貴・三宅弘晃・中尾賀要子・銭谷尋乃　非営利NGOパートナー共済の会員（2024年4月現在753名）とその家族のうち、HIV陽性者への金融包摂サポートの実際と今後の課題について報告する。
3.大学におけるトランスジェンダー学生の受入課題―日米の女子大学事例を中心に	共	2024年9月28日	第28回日本ジェンダー学会・ミニシンポジウム（会員企画）・追手門学院大学	安東由則・西尾亜希子・中尾賀要子・小山聡子　アメリカ及び日本の女子大学を中心とするトランスジェンダー学生の受け入れ決定経緯と入学後の支援の取り組みの報告を行い、会場との議論で課題に関する理解を深めたミニ・シンポジウム（科研費・20H01639）。本報告では2022年度入学生より武庫川女子大学で実施しているジェンダー・キャリア・ライフプランに関する意識調査の中から、ジェンダーとセクシュアリティに関する７項目の結果並びに多様性に関する本学の動向を提示した（JSPS科研費 JP20H01639/23K20173）。
4.Perceptions towards Life's End among Japanese American Older Adults	単	2019年10月24日	第77回日本公衆衛生学会総会・一般演題(English Session)・高知会館	Nakao-Hayashizaka, K. C. 本研究は、南カリフォルニア在住の50歳以上の日系アメリカ人高齢者（n=186)を対象としたサーベイの質問項目のうち、一番最後に設けた自由記述欄に回答された死に関する思いや考えをコード化・カテゴリー化した結果報告。英語発表。
5.終末期に対する文化的態度を測る試み－日系アメリカ人高齢者のサーベイ結果から	単	2017年11月1日	第76回日本公衆衛生学会総会・一般演題（示説）・かごしま県民交流センター	中尾賀要子　移民国家のアメリカでは、さまざまな価値観や信条といった文化的要素に関する医療従事者の理解と受容が求められている。本研究は、日系アメリカ人高齢者の終末期に関する文化的態度を測定する尺度の開発を目的とし、終末期に関する文化的態度を尋ねた質問14項目を作成し、南カリフォルニア在住の50歳以上の日系アメリカ人高齢者を対象としたサーベイの回答を基に探索的因子分析を行い、内的整合性を調べた量的調査の報告。
6.日本版ガイデッド・オートバイオグラフィーによる回想法とその効果－参加を終えた女性高齢者らの語りから－	単	2017年3月11日	日本社会福祉学会関西地域ブロック・関西社会福祉学会自由研究発表・関西学院大学	中尾賀要子　最大8名までの少人数を対象とするグループ・ライフレビュー「ガイデッド・オートバイオグラフィー（Guided Autobiography、以下GAB）」の日本版を日本在住の高齢者に実施し、その体験について参加者の感想と意見を募り、その効果を参加者の視点と声から質的に分析し整理した（文部科学省科研費 JP23530793）。
7.Knowledge, Preferences, and Arrangement of End-of-life Care and Decision-making among Japanese American Older Adults: Community Survey Findings（査読あり）	単	2010年11月	Paper presentation at the 63rd Annual Meeting of the Gerontological Society of America, New Orleans, LA.	Nakao, K. C.　在米日系人高齢者を対象に行ったサーベイ調査の記述統計発表。遺言、代理人、延命治療、ホスピス、臓器提供、葬儀について、理解、好み、準備状況と、健康、価値観、死への意識といった各種要因について性別、年齢区分、移民経緯による分類結果を報告した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
8.Social Work Knowledge of Aging Quiz: Validation Outcomes and Future Refinement（査読あり）	共	2009年11月	Poster presentation at the 55th Annual Meeting of the Council on Social Work Education, San Antonio, TX.	Nakao, K. C., Damron-Rodriguez, J., & Volland, P.　全米25のソーシャルワーク大学院に在籍中の学生データ用いて、社会福祉教育用に厳選した25問の高齢期に関する知識評価尺度（Knowledge of Aging Social Work Quiz）のPre-Postデータによる妥当性と信頼性の検討。英語発表。
9.Traumas and transformational coping mechanisms among Japanese American Hiroshima /Nagasaki survivors（査読あり）	共	2008年11月	Paper presentation at the 24th International Society for Traumatic Stress Studies, Chicago, IL.	Ikeno, S., & Nakao, K. C.　在米被爆者における被爆体験に起因するトラウマとコーピングの変容について、在米被爆者23名のライフレビューデータを基に調査した質的研究。共通体験として国際情勢に絡んだ移民経験を抽出。重層的差別やトラウマの対処法として、「仕方がない」という特徴的なコーピングメカニズム、また、鮮明な記憶に残る戦争・原爆体験が、加齢と共に全人生経験を左右するイベントとして位置づけられていった過程を確認した。英語研究発表。
10.The experience/ competence equation in geriatric social work education（査読あり）	共	2008年11月	Paper presentation at the 61st Annual Meeting of the Gerontological Society of America, National Harbor, MD.	Damron-Rodriguez, J., Nakao, K. C., Bachrach, P. S., Lawrance, F. P., & Volland, P.　老年社会福祉教育における Competency-Based Educationは、個々の学生の今までの高齢者と の関わりの上に成り立っている。本研究では、米国社会福祉学院生のCompetencyの自己評価は、入学直後の場合、それまでの高齢者との交流頻度によって予測可能である一方、入学一年後には、老年学関係の履修数によって予測可能であることがわかり、老年社会福祉教育の重要性を示唆した。英語研究発表。
11.Field instructor assessment of students' geriatric competence: What they cannot assess（査読あり）	共	2008年10月	Paper presentation at the 54th Annual Meeting of the Council on Social Work Education, Philadelphia, PA.	Nakao, K. C., Damron-Rodriguez, J., Lawrance, F. P., & Volland, P.　社会福祉援助技術演習、特に高齢者関連施設の現場指導員の声を取り上げた調査は少ない。本研究では、指導員の担当学生に関する援助技術評価について取り上げ、現場評価不可能とされる実習分野について記述式統計方法を用いて考証した。臨床ケースは比較的評価できる機会が多いとしたものの、死に関するケースは非常に少なく、プログラムの予算編成やグラント申請の機会も学生には廻ってこない現状が浮かび上がった。英語研究発表。
12.Validation of the Practicum Partnership Program Geriatric Social Work Competency Scale II (GSWC Scale-II)（査読あり）	共	2008年1月	Paper presentation at the 12th Annual Meeting of the Society of Social Work and Research, Washington, D.C.	Nakao, K. C., Damron-Rodriguez, J., Lawrance, F. P., Volland, P., & Bachrach, P. S.　高齢者への社会福祉援助技術を自己評価するGeriatric Social Work Competency Scale-II の妥当性と信頼性に関する研究発表。社会福祉大学院生257名のサーベイデータより、学生のデモグラフィック、コース履修、高齢者のためのボランティアや就労経験、老年期に関する知識などの相関関係を検証。自己評価点数と身内以外の高齢者との交流との相関関係があり、高い妥当性と信頼性が確認された。
13.Examination of the psychometric properties of the Knowledge of Aging for Social Work Quiz (KASW)（査読あり）	共	2007年11月	Paper presentation at the 60th Annual Meeting of the Gerontological Society of America, San Francisco, CA.	Nakao, K. C., Damron-Rodriguez, J., Lawrance, F. P., Volland, P., & Bachrach, P. S.　全米25のソーシャルワーク大学院に在籍中の学生257名のデータ用いて、社会福祉教育用に厳選した25問の高齢期に関する知識評価尺度（Knowledge of Aging Social Work Quiz）の妥当性と信頼性の検証。 老年学系コースの履修とボランティア経験の有無、また知識尺度の得点に相関関係が見られ、尺度の信頼性も確認された。今後の研究課題として、Pre-Postデータによる検証を提言。英語発表。
14.Falling through the cracks of two nations: Aging Japanese American A-bomb Survivors（査読あり）	共	2007年5月	Paper presentation at the 6th Hawaii International Conference of Social Science, Honolulu, HI.	Nakao, K. C., & Ikeno, S.　帰米と呼ばれる日系アメリカ人被爆者に焦点を当て、直接インタビュー、老年学理論、移民史料、医学論文、戦争史等の文献を用いたケーススタディアプローチにより、多面的な角度から在米被爆者問題を考証。在米被爆者のプロファイルとして高齢化による身体的、心理的、社会的問題の変容、現行の被爆者援護政策の限界、今後の研究指針について言及。学会及び学会参加者の特色を踏まえ、啓蒙目的で内容の構成に当たった英語発表。
15.The meaning of	共	2006年12月	Paper	Ikeno, S., & Nakao, K. C.　重層的差別を経験してきた「帰米」と

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
Hiroshima for “Kibei-Nisei”: The post-traumatic adaptation processes among Hiroshima survivors of Japanese American Second Generation（査読あり）			presentation at the 2006 International Conference for Social Work in Health and Mental Health, Hong Kong, China.	呼ばれる日系アメリカ人被爆者にとって、被爆体験とは何かという問いの答えを探求した質的研究の英語発表。被爆体験がその後の人生に与えた影響と、今尚困窮させる要因について検証。歴史的背景、コーピング、原爆体験から生きる意味への変容過程、また高齢化による身体的変化と援護政策のギャップを説明。学会及び学会参加者の特色を踏まえ、啓蒙目的で発表内容の構成に当たった。
16.ライフレビュー・アプローチに基づく在米被爆者（帰米二世）の外傷体験と価値変容に関する探索的研究（査読あり）	共	2006年10月	日本社会福祉学会第54回全国大会（埼玉）	池埜聡･中尾賀要子　高齢期を迎えた在米被爆者の被爆による外傷体験（トラウマ）がウェルビーングに与える長期的影響の理解を試みた質的調査研究の日本語発表。在米被爆者6名のインタビューデータより、移民経緯とライフイベントを抽出しながら、生存者罪悪感に加え、重層的差別、家族内世代間格差など、移民特有の現象を確認。更に、トラウマから被爆者として生きる意味の模索といった外傷体験の変容など、心裡社会的問題の所在を明らかにした。
17.高齢化する在米被爆者（帰米二世）の身体・心理・社会的状況に関する実態調査（査読あり）	共	2006年10月	日本社会福祉学会第54回全国大会（埼玉）	中尾賀要子･池埜聡　米国南カリフォルニア地域在住の高齢化する被爆者の身体・心理・社会的状況の包括的理解と、日本政府による公的サービス及びプログラムのあり方についての提案を目指した日本語研究発表。被爆による長期的な健康への影響だけでなく、高齢化による健康面の変化、また悪化の不安を抱えながら暮らす在米被爆者の実態を報告。本当に公的支援を必要としている在米被爆者へは届かないという矛盾を抱えた、現行の援護活動の限界を指摘。
18.Fostering intergenerational exchange: Community/ University partnership primary thematic area: Intergenerational programs and issues（査読あり）	共	2006年3月	Workshop at the 2006 Joint Conference of the American Society on Aging and the National Council on the Aging, Anaheim, CA.	Carpiac, M. L., Lee, S. E., Nakao, K. C., O’Byrne, K., Damron-Rodriguez, J., Wood, M. M., & Hammond, A.　UCLA教養課程における老年学の授業を例に、通年の講義に加え、ディスカッションや課題の構成、また大学生をコミュニティーの高齢者関連施設にて一定期間研修させるサービスラーニングについて、ワークショップ型式で発表。世代間交流を促進するためのコミュニティーと大学の協力体制をどのように具体化していくべきか、またその際の留意点を、ワークショップ参加者(主に大学教員ら)を交えて、参加型形式で検討・議論した。
19.Service utilization and barriers to service use among Chinese and Japanese American family caregivers of elders with dementia（査読あり）	共	2005年11月	Paper presentation at the 58th Annual Meeting of the Gerontological Society of America, New Orleans, LA.	Moon, A., Nakao, K. C., & Lee, S. E.　一般的に、マイノリティー、特にアジア系アメリカ人は、公的援助の必要性が白人に比べて高いにも関わらず、福祉サービス利用は白人に比べ極めて低い。更に民族別に見た移民歴の違いで、サービス利用に差があることがわかっている。本研究では、中国系と日系アメリカ人のアルツハイマー患者を自宅介護する介護者の抑鬱症状と福祉サービス利用度の違いを比較検討し、ソーシャルワーカーの役割について言及した。量的研究の英語発表。
20.Recruitment and retention of the ethnic minority elderly in gerontological research: Lessons learned from conducting life reviews and implications for practice（査読あり）	共	2005年3月	Poster presentation at the 2005 Joint Conference of the American Society on Aging and the National Council on the Aging, Philadelphia, PA.	Kietzman, K. G., & Nakao, K. C.　地域に暮らすマイノリティー高齢者の、調査･研究活動への参加と協力の継続（リクルート＆リテンション）について、自らの調査経験を振り返りながら、老年学におけるマイノリティー研究の現状を総評。民族ごとの歴史的背景や社会的特徴の把握と、研究者と実践家の相互協力の重要性を指摘。更に研究者へ文化的理解向上への尽力を提言。英語による共同発表。
21.The Effects of age and social	共	2005年3月	Poster presentation at	Nakao, K. C., & Kietzman, K. G.　ノースリッジ地震被害にあった高齢者において、年齢とソーシャルネットワークがその心理社会的

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
network among the elderly in the face of natural disaster: Lessons from the Northridge Earthquake of 1994（査読あり）			the 2005 Joint Conference of the American Society on Aging and the National Council on the Aging, Philadelphia, PA.	ウェルビーングにどのように影響したかを検討した英語による量的調査発表。
22.Life history and well-being of elderly Japanese Americans（査読あり）	共	2004年11月	Poster presentation at the 57th Annual Meeting of the Gerontological Society of America, Washington, D.C.	Nakao, K. C., Edamura, C. M., & Wallace, S. P.　日系アメリカ人高齢者の強制収容所経験を中心としたライフレビューを通してウェルビーングへの影響を検討した。英語による質的調査発表。
23.Meta-evaluation of long-term care policy: Collaborative efforts and future directions（査読あり）	共	2004年4月	Paper presentation at the 2004 Joint Conference of the American Society on Aging and the National Council on the Aging, San Francisco, CA.	Kietzman, K. G., Nakao, K. C., & Chung, G.　高齢化の進む米国において、ロングタームケア政策の重要性を指摘する声は多い。本研究は、米国ナショナルデータを使ったロングタームケア政策の研究論文を厳選し、メタ・アナリシスを行うことで、政策研究による総体的な示唆の把握を試みた。その結果、マイノリティー高齢者を視野に入れた研究が少なく、マイノリティーのロングタームケア・ニーズに合致しない政策提案に結びついていることが指摘された。英語による研究結果発表。
24.The role of Japanese cultural values in emotional distress among caregivers of persons with dementia（査読あり）	共	2003年11月	Poster presentation at the 56th Annual Meeting of the Gerontological Society of America, San Diego, CA.	Nakao, K. C., & Knight, B. G.　認知症患者の自宅介護者のメンタルヘルスについて、アジア系アメリカ人、特に日系アメリカ人に関する理解はほぼ皆無である。本研究では、文化的価値観や信条に注目し、日系人と日本人介護者の比較により、コーピング、負担感、抑鬱、不安に文化的要因が及ぼす影響について仮説検証を行った。負担感と不安は日本人サンプルの方が高く、抑鬱には文化的要素による抑制効果が両グループに見られた。英語による量的調査発表。
25.Ethnic differences in health and health practices among the elderly Chinese and Japanese in Los Angeles（査読あり）	共	2003年	Paper scheduled for presentation at the 17th Asia-Pacific Social Work Conference, Nagasaki, Japan (The entire conference was canceled due to the SARS threat).	Nakao, K., Lee, A. E. Y., & Lubben, J. E.　中国系アメリカ人高齢者及び日系アメリカ人高齢者の健康と健康維持活動に関する相違点を民族的視点から取り上げた。英語による量的調査発表。
３．総説				
1.高齢者に対する日本の回想法研究－文献レビュー(1992-2012)（査読あり）	単	2013年	武庫川女子大学大学院　臨床教育学研究科　臨床教育学研究，19，79-104.	中尾賀要子　超高齢社会となったわが国における高齢者支援の現場では、記憶力の維持・向上が見込まれる回想法に注目が集まる。しかし、回想法の効果について、現在まで明確な統一見解があるわけではない。そこで本稿はシステマティックな文献レビュー論文として、日本国内で実施されてきた高齢者に対する回想法について、1992年から2012年までに発表された回想法研究の原著論文から40本を段階的に選定し、認知機能への影響及び効果についてこれまで報告されている知見を整理した（文部科学省科研費JP23530793）。
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1.表千家 教授		2019年9月	一般社団法人表千	林坂宗賀／Hayashizaka Souga（兵庫県支部　5679）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
			家同門会	
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.武庫川女子大学大学臨床教育シンポジウム 災害復興と福島のソーシャルワーカー―「自分たちの痛み」の共有から始まった10年	共	2021年11月13日	2021年度　武庫川女子大学　臨床教育学研究科　シンポジウム	松崎暁世・菅野直樹・森美樹・中尾賀要子　2021年度　武庫川女子大学　臨床教育学研究科　シンポジウム「災害復興と福島のソーシャルワーカー～「自分たちの痛み」の共有から始まった10年～」シンポジウム司会進行役。
2.2011年回想録：福島でのデブリーフィング	単	2021年11月13日	2021年度　武庫川女子大学　臨床教育学研究科　シンポジウム	中尾賀要子　2021年度　武庫川女子大学　臨床教育学研究科　シンポジウム「災害復興と福島のソーシャルワーカー～自分たちの痛みの共有から始まった10年～」に関連する特別動画として、アメリカ同時多発テロ9.11発生当時のアメリカでのソーシャルワーク実習の模様を動画にまとめ、シンポジウムにて動画配信した。
3.女子大におけるトランスジェンダー学生の受け入れ～当事者の困難と大学からの支援のあり方	共	2021年6月12日	武庫川女子大学教育研究所	三橋順子・安東由則・中尾賀要子　2021年度　武庫川女子大学　教育研究所　学術講演会「LGBT＋とAllyのための大学教育」に関連する特別対談として、講師の三橋順子氏へのインタビューを実施した。その模様をダイジェスト動画にまとめ、期間限定で動画配信した。
4.在外被爆者医療費裁判勝利	単	2015年10月	在ブラジル・在アメリカ被爆者裁判ニュース，37，24-25.	中尾賀要子　在外被爆者医療裁判の勝利判決に寄せて、在米被爆者団体の活動における自らの役割について述べた回想文。
5.広島地裁判決に接して感じたこと、考えたこと	単	2015年7月	在ブラジル・在アメリカ被爆者裁判支援ニュース，36，15-16.	中尾賀要子　2015年の広島地裁の判決に際して、在米被爆者支援に微力ながら関わってきた立場からの一考察。
6.在米被爆者の生活と願い	単	2012年12月	在ブラジル・在アメリカ被爆者裁判支援ニュース，31，7-9.	中尾賀要子　2012年07月31日「在ブラジル・在アメリカ被爆者裁判を支援する会」主催「在外被爆者を支援する集い（広島市中区福祉センター）」での発表のダイジェスト版。
7.在米被爆者とアメリカの医療制度	単	2010年11月	福祉のひろば，12，68-69.	中尾賀要子　在米被爆者の医療ニーズとアメリカの医療制度との乖離について、簡潔な解説を試みた寄稿。
8.在外被爆者問題とは	単	2010年9月18日	武庫川女子大学教育研究所・臨床教育研究懇談会	中尾賀要子　武庫川女子大学教育研究所主催の臨床懇（臨床教育研究懇談会）にて「在外被爆者問題とは」と題して講演した。
9.高齢化する在米被爆者	単	2010年4月	月刊福祉，93(5)，90-93.	中尾賀要子　高齢化する在米被爆者の心理社会的現状と歴史的背景を、3回シリーズでわかりやすく説明しようと試みた解説の最終回。高齢化と被爆による問題の複合的側面と今後の支援課題を解説。
10.Global Aging Report（日本版）「ドミニカ共和国」「イスラエル」	共	2010年3月25日	国際長寿センター（ILC-Japan）	中尾賀要子　2009年刊行のGlobal Aging Report（英文版）の日本語翻訳編著。ドミニカ共和国及びイスラエルの章について翻訳校閲を担当。
11.高齢化する在米被爆者	単	2010年3月	月刊福祉，93(4)，90-93.	中尾賀要子　高齢化する在米被爆者の心理社会的現状と歴史的背景を、3回シリーズでわかりやすく説明しようと試みた解説の2回目。太平洋戦争前後を特集。
12.高齢化する在米被爆者	単	2010年2月	月刊福祉，93(3)，88-91.	中尾賀要子　高齢化する在米被爆者の心理社会的現状と歴史的背景を、3回シリーズでわかりやすく説明しようと試みた解説の初回。アメリカに住む被爆者の存在を、日系移民史を紐解くことで解説。
13.Practicum Partnership Program (PPP) Adoption Initiative Multi-Site Evaluation Report April 2005 - September 2007.	共	2007年9月	The New York Academy of Medicine Social Work Leadership Institute, New York, USA.	Damron-Rodriguez, J., Lawrance, F. P., & Nakao, K. C. PPP参加大学35校の参加学生と参加大学概要に関する英語報告書。学生の老年に関する知識、援助技術力評価、デモグラフィック、及び大学規模、教員数などの総合情報を分析、執筆を担当。英語研究報告書。
14.Practicum	共	2006年12月	The New York	Damron-Rodriguez, J., Lawrance, F. P., & Nakao, K. C. PPP参

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
Partnership Program (PPP) Individual Site Report April 2005 - September 2006.			Academy of Medicine Social Work Leadership Institute, New York, USA.	加各校へ、参加学生に関する詳細を記述的にまとめた英語研究報告書。援助技術力（自己評価および指導者評価）、学生の老年に関する知識、また学生のデモグラフィックなどを分析、執筆担当。英語研究報告書。
15.Practicum Partnership Program (PPP) Adoption Initiative Multi-Site Evaluation Report April 2005 - September 2006.	共	2006年11月	The New York Academy of Medicine Social Work Leadership Institute, New York, USA.	Damron-Rodriguez, J., Lawrance, F. P., & Nakao, K. C. 米国ソーシャルワーク大学院10校の情報（大学規模、学生数、教員数、社会福祉援助技術演習指導員数等）についての分析と執筆を担当。英語研究報告書。
６．研究費の取得状況				
1.大学におけるトランスジェンダー学生の受け入れ課題：日米の女子大学を中心に	共	2020年4月～2025年3月（予定）	科学研究費補助金「基盤研究（B）」	研究代表：安東由則、研究分担者：西尾亜希子・中尾賀要子 COVID-19感染症の影響により、日本国内のトランスジェンダー学生の受け入れを表明した女子大学を中心に、その経緯の聞き取り調査を実施。2024年度は最終成果報告として日本ジェンダー学会でミニ・シンポジウムを開催、学術論文を作成中（研究課題番号：20H01639/23K20173）。
2.災害ソーシャルワークモデルの構築：被災地ソーシャルワーカーの語りと対話から	単	2018年4月～2024年3月（予定）	科学研究費補助金「基盤研究（C）」	福島県のソーシャルワーカー（SW）による語りと対話を通して、災害ソーシャルワークのモデルを構築し検討することを目的に、自らも災害に揺さぶられたSWの被災体験だけでなく、支援者としてのこれまでの軌跡を俯瞰した質的データを収集した。新型コロナウイルス感染症による影響を受けたため期間延長を申請し、現在最終年度の報告書を作成中（研究課題番号：18K02091）。
3.日本版ガイデッド・オートバイオグラフィーの妥当性検証	単	2011年4月～2015年3月	科学研究費補助金「基盤研究（C）」	欧米諸国において30年以上に渡る実践の歴史がある体系的回想法「ガイデッド・オートバイオグラフィー(Guided Autobiography、以下GAB)」日本版の実践モデルの妥当性を検討すべく、本国在住者を対象としたGAB参加者の心理社会的ウェルビーングの変化を調べ、研究と実践に資する日本版GABを使用した実践モデルの構築を目指す研究。武庫川女子大学鳴松会会員で、西宮市在住の65歳以上を対象に参加者を募り、インタビュー調査と質問紙調査を実施した。インタビュー調査結果からは、本学の同窓生であり、女性高齢者であるという共通性を軸に、参加者間の信頼関係の醸成について検討した（文部科学省科研費JP23530793）。

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2024年8月～現在	日本エイズ学会　会員
2.2024年8月～現在	日本ジェンダー学会　会員
3.2023年3月～現在	University Diversity Alliance (UDA) 賛同者
4.2020年8月～現在	在ブラジル・在アメリカ被爆者を支援する会　会員
5.2017年～現在	日本ソーシャルワーク学会　会員
6.2017年～現在	認定特定非営利活動法人ウィメンズ アクション ネットワーク（WAN）会員
7.2017年～現在	日本公衆衛生学会　会員
8.2010年～現在（理事 2024年10月～）	武庫川臨床教育学会　会員
9.2010年～2020年7月	在アメリカ・在ブラジル被爆者裁判を支援する会（広島）　会員
10.2010年～2016年8月	日本臨床教育学会　会員
11.2006年～現在	日本社会福祉学会　会員
12.2005年～現在	Volunteer, North American A-bomb Survivors Association (NABS) , State of California, USA
13.2004年	Selected Participant, RAND Summer Institute. Mini-Medical School for Social Scientists. RAND, Santa Monica, CA.
14.2001年～2003年	Selected Participant, National Institute on Aging, Minority Master’s Level Emerging Scholar’s Program, 2001-2003, Association for Gerontology in Higher Education (AGHE), Washington D.C.
15.2001年～2002年	Selected Participant, Geriatric Social Work Education Consortium (GSWEC), Center for the Advancement of Aging Programs and Practice with Partners in Care Foundation, San Fernando,

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
６．研究費の取得状況	
	CA